

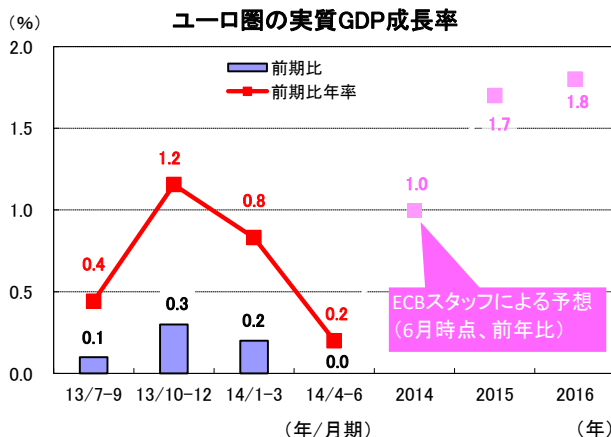
## 今日のトピック ユーロ圏のGDP成長率(4-6月期)

### 予想外のゼロ成長、政策期待で株高・金利低下

#### ポイント1 予想外のゼロ成長

独、仏、伊、主要国が総じて不振

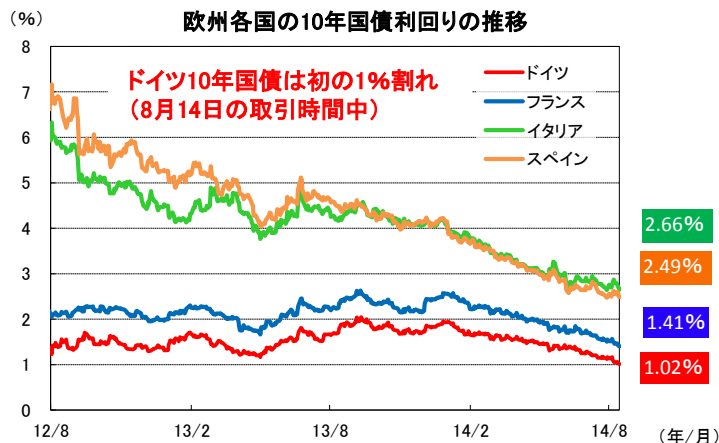
- EU統計局が14日に発表したユーロ圏の4-6月期GDP成長率は、前期比+0.0%の横ばい、前期比年率では+0.2%の小幅なプラスとなりました。
- ドイツが前期比▲0.2%と6四半期ぶりのマイナス(EU統計局ベース)となったほか、イタリアが同▲0.2%と2四半期連続のマイナスとなりました。フランスも2四半期連続のゼロ成長となりました。
- ドイツは1-3月期が同+0.7%と高かった反動という側面があります。ただし、対ロシア関係の緊張もあり、景況感や生産は鈍化してきました。
- 一方、スペインが同+0.6%、オランダが同+0.5%など、中堅国の成長が下支え要因でした。



#### ポイント2 政策期待で株高・金利低下

追加緩和策への期待が高まる

- ECB総裁は、中期的な物価見通しに変化が生じれば、非伝統的な金融緩和策を追加することに関し、理事会は合意済みと言及しています。
- 足元の景気と物価の下振れに際し、市場では追加緩和策への期待が高まり、株価が上昇、金利は低下しました。



(注) GDP成長率は2013年7-9月期~2014年4-6月期。  
各国の10年国債利回りは2012年8月1日~2014年8月14日。終値ベース。  
(出所) EU統計局、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

#### 今後の展開 9月のECBスタッフ見通しは下方修正され、資産購入に一段の現実味も

- ECBは9月発表の景気・物価見通しを、小幅に下方修正するものと思われます。
- ECBは9月から、新たな資金供給策(TLTRO)を実施する予定です。ECBはTLTROの効果を見極めつつ、次の緩和策の検討を進めそうです。
- ECBはまず資産担保証券(ABS)などの民間資産の購入を視野に量的緩和を検討しそうです。今後は、ECB総裁から検討内容について、何らかの言及があるか、注目されます。
- 株式市場では、低金利環境の継続に加え、米中景気の持ち直しなどから企業業績が上向き、株価は底堅く推移しそうです。ただし、地政学リスクの景気・企業業績への影響に注意が必要です。
- 債券市場では、追加緩和期待や低金利が長引くとの観測から、債券価格は底堅く推移しそうです。
- 為替市場では、ECBの追加緩和への期待が続く一方、日銀にも根強い追加緩和観測があることなどから、ユーロ円は一進一退となりそうです。

#### ここもチェック!

2014年08月08日【デイリー No.1,931】ユーロ圏の金融政策(2014年8月)  
2014年08月07日【デイリー No.1,930】欧米株式市場の最近の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。